

1. 事業細目	漁場保全研究調査	予算額	653 千円
2. 研究名	西の湖水草繁茂状況調査	予算区分	県単
3. 研究期間	62年度～ 年度		
4. 担当者	的場		

5. 目的 西の湖における水草除去など水草管理および漁場環境保全対策の資料とするため、繁茂状況を調査した。

## 6. 方法

西の湖を4水域に分け、漁業者の協力を得て、2人1組で一斉に現場調査を実施した。

調査項目は水草の繁茂状況を4段階（3+：表面まで繁茂、2+：底面～中層まで繁茂、+：まばら、-：成育なし）に分け同時に水深を測定し地図上に記入した。

また、最も繁茂している場所と中程度に繁茂している場所でそれぞれ、1㎡を熊手状の藻刈り器で根から刈りし、水草の組成と重量を調べた。

この結果をもとに、水草の現存量と繁茂面積を推定した。

## 7. 結果の概要

西の湖ではS62年夏期より水草の異常繁茂によって、湖内の水の流通障害、懸濁物質、植物プランクトンなどの浮遊や発生の制御など、特に真珠漁業に大きな影響を与えるに致っている。

S58年春に大量繁茂したのは沈水植物のコカナダモ、オオカナダモが主で、1㎡当りの水草の重量は2～5kgであった。

今回の優占種は、オオカナダモ、マツモ、フサジュンサイ(ハゴロモモ)で、オオカナダモは、中央部を含む南北水域、マツモは、東部から南部にかけての水域と、西部水域、フサジュンサイは、西の湖奥部で、それぞれ約80%以上を占めていた。

この他に、ホテイアオイが比較的多く水際に繁殖し、コカナダモ、ホザキノフサモ、センニンモ、セキシウモ、ヒシなどが点在していた。また、繁茂している水草の上をアオミドロが覆っていることが多く、一部ではそれが枯死し始めていた。

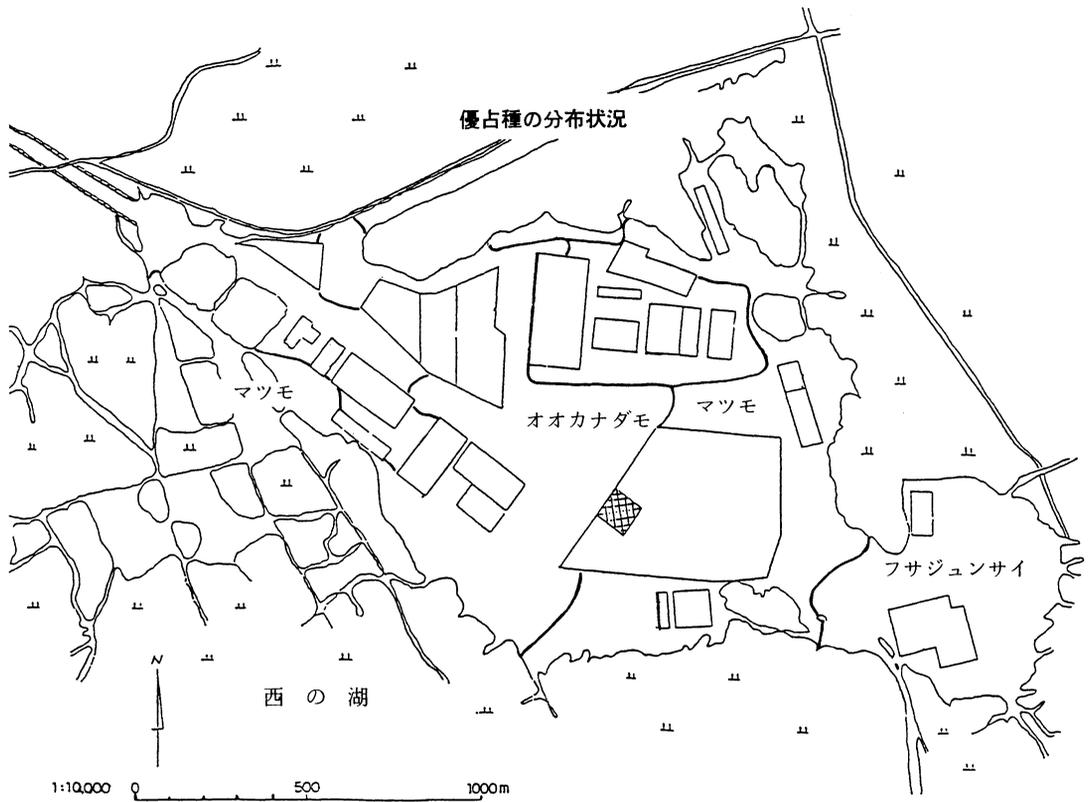
一方、各真珠養殖場内では、ほとんど水草の生育は認められなかった。

それぞれ優占している水草の1㎡当りの最大現存量(湿重量)は、オオカナダモ……4.4kg、マツモ……3.8kg、フサジュンサイ……4.5kgで、現場の水深と繁茂状況を加味して西の湖全体では、オオカナダモ……1,712.6トン、マツモ……613.8トン、フサジュンサイ……1,321.7トン、合計3,648.1トン、繁茂面積は、1,083,000㎡と推定した。これは西の湖面積約220万㎡の約2分の1に当たる。

水草の異常繁茂は、琵琶湖での異常繁茂とほぼ一致し、濁水による水位低下時とよく一致しているように思われる。

また優占種となる水草は年によって異なるようで、フサジュンサイはこれまで、北山田以南の南湖東岸部にわずかに見られていたものであり、しだいに生息範囲を拡げているようである。

## 8. 主要成果の具体的数値



## 9. 今後の問題点

水草の効果的な管理方法と水草の利用法の開発

水草の枯死分解生成物の環境および水生生物への影響調査

## 10. 次年度の具体的計画